

メールレター(22)

冬の到来

冬来りなば、春遠からしと言えたらよいのですが、モンリオールにはいよいよ、本格的な終わらない冬がやってきたようです。3週間の楽しい日本滞在を終えてモンリオールに戻ると、ここは寒い冬でした。突然ふりだした雪がやっと出来上がったテラスに薄く残り、凍てつき始めました。冬は、音もなくやってきて、どっしりと来年の4月ころまで居座りそうです。長いなあ〜。今日はマイナス10度になりました。やれやれ、分厚いコートと、襟巻き、手袋で身動きがとれそうもありません。

日本に滞在して眺めてみると、当節変わりつつあると言われる日本ですが、こちらに比べると安定した賢い国民性にシャポーといえそうです。行き届いた気配りと暮らしの工夫は素晴らしく、涙がでそうです。男も女も、老いも若きも、一人一人が頑張っている、そんな印象を得ました。日本人で良かったと思う瞬間です。

オールドモンリオールの我が家の一角は、観光客がすっかり姿を消し、ひと気がなくなりました。早朝ランニングをするイケメンの若者に出会えればめっけものです。街にはクリスマスイルミネーションが施され、町中がキラキラ輝き始めました。車道は、そんなことにお構いなく、終わらない補修工事で渋滞が続いています。町の中に工事が無い道路を探すのは不可能と言われるほど、網羅された道路工事。雪が降ったらどうするんだらう？雪が降る前に頑張るかたずけるのではなく、雪の合間に続けます。なぜなのか何時終わるのか不明なまま、こうして2〜3年と続いていきます。理由は簡単です。一つ終わって新しいのにかかるのではなく、できる限り一辺に手をつけ、やりちらかすのです。その間契約は続行され、経費はかかっています。この世界はイタリアンマフィアが司る世界らしく、政府と粘着した関係は改められる様相もなく、アメーバのように手を広げていきます。

我が家は、この年末雑事に追われています。ドリトル先生は、剣道連盟の会長職というか、小使いさんというか、書類の処理や会議の雑務や大会のスピーチに追われ、カナダ中を飛び回っています。人工股関節は完治したらしく、足を引きずることもなく、剣道の稽古では若い子達を脚さばきも鮮やかに攻めまくっているようです。手術までの痛さを堪えた3〜4年でだいぶ筋肉は落ちてしまいましたが、年の割にはまだずっしりと筋肉はついていて、そのうち多少取り戻すことでしょう。

多忙なドリトル先生ですが、テレビを寝室に引き込み、クラシック音楽の鑑賞をユーチューブで毎晩楽しんでます。子供の頃、パリで子供のための音楽鑑賞講座を何年かあっていて、毎週有名オーケストラのコンサートを聴いていたそうです。大人と全く同じコンサートを指揮者の説明つきで聴く講座だったとか。バイオリニストで画家だった父親の勧めだったそうです。この辺に、フランスの文化度とバランスのとれた教育レベルの高さを感じます。

今はその当時とは比べものにならないほどの楽器の演奏者の技術もあがり、ほぼ完璧に近い音だと感激しながら聴いています。「でもね、音楽で語りかける心は、スマホの時代にはそれほど熱いものではないのかもしれないね」とつぶやいてもおります。

マダム田中は、日本の美味しい料理の味を思い出してエネルギーをふるいだしながら、いけばな活動で、生け込みやらお稽古やらと走り回っております。かくして、おばさんたちとの交流が再開しました。楚々と日々を送りながら、前進していく日本の友人達を思い出しては、注文の多い、外人のおばさん達(おっと、ここではマダム田中が外人なのです。移民ですから)に翻弄されています。といっても、頑張る、良き外人のおばさん達ではあるのですが。おばさん達は、この時期は、クリスマスはどう過ごすか、どんな贈り物にするか試行錯誤しています。クリスマスは何より大事な行事ですから。

クリスマスのお料理は、家庭によってまちまちです。北アメリカでは七面鳥を長い時間かけて料理するところが多いのですが、鴨の家もあれば、ビーフローストの家もあります。当節はアントレやオードブルにフォアグラもだいぶ食べるようになりました。今度はどうしようかなあ、美味しく楽しいクリスマスはすぐそこです。